

2013.11

HATOBUKI

秋号

Vol.5

岐阜社会保険病院の「今」を伝える

はとぶき

岐阜県社会保険
病院
はとぶき



特集

医師と患者をつなぐ医療の懸け橋に

充実した医療を支える4人の認定看護師

地域医療機関と岐阜社会保険病院を結ぶ懸け橋

医療連携室だより VOL.5 あんどうクリニック

はとぶきホットライン VOL.4

病院直営で入院中の食事を提供 入院患者の療養を食でサポート!



看護外来で療養指導する糖尿病看護認定看護師の邊辺智恵美さん。「外来患者と入院患者を継続して看護できるようになった」と話します

認定看護師は「特定分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる看護師」を養成するために生まれました。1997年、「救急看護」と「皮膚・排泄ケア」の2つの分野から始まり、現在は21の分野で認定看護師が活躍。岐阜社会保険病院でも、「皮膚・排泄ケア」、「糖尿病看護」、「がん性疼痛看護」の3分野に4人の認定看護師が在籍しています。

特定分野のエキスパート 全体の力を高める認定看護師

認定看護師という制度をご存知ですか。専門的な知識と技術を身につけた、看護師の中のエキスパートです。岐阜社会保険病院には、現在4人の認定看護師と1人の認定看護管理者が在籍。医師と患者の間で、より高い医療が提供できるように奮闘しています。

特集

医師と患者をつなぐ医療の懸け橋に 充実した医療を支える4人の認定看護師

イベントニュース

11月11日(月)～15日(金)は全国糖尿病週間 糖尿病週間イベント「公開糖尿病教室」を開催!

生活習慣病のひとつである糖尿病。平成19年、厚生労働省が発表した「国民健康・栄養調査」によると、「糖尿病が強く疑われる人」は890万人、「糖尿病の可能性を否定できない人」は1,320万人、計2,210万人いると推定されています。

全国糖尿病週間中、岐阜社会保険病院では合併症や食事との関係などを解説するパネル展示を行います。また、血糖値・体脂肪測定も実施。さらに、11月15日には食事療法や健康に良い体操を学べる「公開糖尿病教室」を開催します。

ぜひ、この機会に糖尿病についての知識を深めましょう。

糖尿病週間

2013年11月11日(月)～15日(金)

- パネル展示……………9時30分～16時
- 血糖値、体脂肪測定…10時～12時

※HbA1cの測定は、11月14日(木)のみ(当日予約)

公開糖尿病教室 11月15日(金)

- 糖尿病食事療法 クイズ形式で学ぼう…11時30分～
- 室内でできる、健康に良い体操……………13時～

定員 25人 料金 600円

申込 地下栄養課で事前予約



糖尿病週間の期間中は、公開糖尿病教室やパネル展示などで、わかりやすく解説します

第12回市民公開講座 お礼とお詫び

9月14日、当院は『第12回 市民公開講座』を開催いたしました。大変多くの方にご参加をいただき、誠にありがとうございます。

当日は定員を大幅に上回る来場者のため、多くの方が会場に入場できず、聴講いただくことができませんでした。ご来場いただいたにもかかわらず、このような事態を招いてしまいましたことを、深くお詫び申し上げます。また、当日のスタッフの案内が行き届かなかったことも、重ねてお詫びいたします。

このようなことの無いよう、来年からは整理券の配布やスタッフの配置、大劇場での実施などを検討し、より良い講座にしていく所存です。

今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

岐阜社会保険病院 職員一同



多くの方にご来場いただいた
第12回市民公開講座

認定看護師になるには、5年間の実務経験(うち、3年間は専門分野での実務)をもつ看護師が、615時間以上の認定看護師教育課程を修めることを必要とします。「教育課程は6〜7カ月と長期間であるため、職場や家族など周囲の理解がなければ難しいです。一緒に勉強していた人たちも、高い意識で技術と知識の習得に励んでいました」と糖尿病看護認定看護師の渡辺智恵美さん。教育課程を修了後も、学会や講習会などに規定数参加することを義務付けられており、一定の水準を保つように努力し続けています。

認定看護師の役目は、「高い水準での看護実践」、「看護実践を通した看護師への指導」、「看護師とのコンサルテーション(相談)」の3つ。「認定看護師は通常業務でその力を発揮し

を行う中で、患者さんが変わりたいと思えるような支援ができず悩んでいました」と話します。

患者さんにとって、看護師は身近な存在です。医師には言えないことでも、看護師になら話す患者さんもいます。また、病気に対する知識も患者さんによって異なり、詳しい情報を知っている方もいれば、全く知らない方もいます。そんな人たちの疑



認定看護管理者の福井是子看護局長、看護師をまとめ、病院医療の質を高められるように日々努めています

問に答え、治療について後悔しないように、どんな患者さんもより良い治療やケアが受けられるように支援していきたいと4人は口を揃えます。また、「専門的な知識は、医師と

てもらうほかに、看護師のレベルを引き上げる役目を持っています」と認定看護管理者の福井是子看護局長。医師と患者の認定看護師が病棟にいる時だけではなく、常に高度な医療を提供できるように、看護師を育成する。「一つの分野に特化した人を集めるのではなく、ジェネラリスト(看護師)が、スペシャリスト(認定看護師)の技術・知識を吸収。幅広い分野で活躍できる看護師を育成するのが目的です」と福井看護局長は話します。

間に答え、治療について後悔しないように、どんな患者さんもより良い治療やケアが受けられるように支援していきたいと4人は口を揃えます。また、「専門的な知識は、医師と

のコミュニケーションにも役立ちます。認定看護師になってから、専門知識のもと、患者さんの訴えを医師に伝え、医師の説明を分かりやすく患者さんに伝えるという、懸け橋の役目もできるようになりました」とがん性疼痛看護認定看護師の松村広子さん。日常会話などから患者の思いを引き出し、専門知識のもとで判断できる認定看護師は、医師にとってもありがたい存在。医師が患者の様子を尋ねることも以前より増えたそうです。

現在、岐阜社会保険病院では、ストーマ、糖尿病看護、フットケア、がん看護、一般看護の5分野の看護外来を行っています。「今後、すべての分野を指導できるように努めていきたい」と福井看護局長。今後は在籍する分野以外の病気でも、悩みや有効な療養方法などを相談できるようになりそうです。

患者の一番の味方になりたい 看護外来でより高い医療を提供

なぜ認定看護師を志したのか、資格を得た4人に尋ねました。「患者さんのストーマケアに悩んでいた時に研修の話があり、自分の知識を高めようと決心しました」と皮膚・排泄ケア認定看護師の山口美江さん。また、糖尿病看護認定看護師になって1年目の白村聡子さんも「患者さんが日常生活の質を維持できるように、生活習慣などを変えたいと思う事が大切。しかし、療養指導

左から渡辺智恵美さん、白村聡子さん、松村広子さん、山口美江さん



病院直営で患者さんの食事を提供 入院患者の療養を食でサポート!

岐阜社会保険病院では、入院中の食事にきめ細かな配慮ができるよう、直営で厨房業務を運営。栄養バランスと食事の楽しみにこだわり、先日行われた社会保険病院中部ブロック調理師コンテストでは大賞を受賞しました。



大きな鍋で調理しますが、塩分や摂取カロリーなどは一人ひとりに対応しています

岐阜社会保険病院の病院食は、すべて当病院栄養課が献立を考え、調理したものです。現在、栄養課には管理栄養士4人、栄養士2人、調理師6人、調理補助員10人が在籍し、入院患者の状態に合わせ、塩分や摂取カロリーを細かく調整した食事を提供しています。

「病院食には、栄養バランスの制約があります。実際の入院患者で制限なしのメニューを食べられるのは1~2割程度。多くの患者は何らかの指示があり、患者ごとに調整する必要があります」と話すのは管理栄養士の篠田和典係長。一人ひとりから話を聞き、病状以外に好き嫌いも把握し、楽しく食事ができるように配慮しています。

「おいしいよ」といってもらえることが何より励みになるという栄養課では、月に一度「おたのしみランチ」を提供。「おたのしみランチ」では、普段より豪華な食材を使



大賞受賞メニュー。加熱が前提の病院食で、とろっとした食感を再現するために工夫したといえます

い、調理師が献立を考えます。栗ごはんや朴葉味噌など、季節が感じられるものや郷土料理をひと工夫凝らして提供しています。

9月12日に提供された「おたのしみランチ」は親子丼。鶏肉の炊き込みご飯を薄焼き卵で包み、その上に箔をかけた、通常の親子丼とは一風変わったものです。これは、8月の第7回中部ブロック社会保険病院研修会で開催された病院食のコンテストで大賞を受賞した料理です。

大賞を受賞した塚本亜由美さんは、「食事を楽しんでもらえるよう、見た目もきれいにしています」と話します。味と盛り付け、栄養バランス、そして一人ひとりの患者に対応するこだわりの源泉は「食事で元気になってほしい」という思い。きょうも愛情いっぱいの料理が、入院患者の体と心を癒しています。



調理師の塚本亜由美さん

地域医療機関と 岐阜社会保険病院を結ぶ懸け橋

医療連携室だより

VOL.5

あんどうクリニックの安藤文夫院長は「まち医者であることがこだわり。地域医療を支えることに力を尽くしています。患者は子どもから高齢者まで幅広く、訪問診療も行っています。一人の心に寄り添った医療を提供したい」と安藤院長。クリニックのほかに、ほほえみ居宅介護支援センターや特別養護老人ホームあおぞらなどを開設し、全世代の健康のために力を尽くしています。



とくになった患者の家族が、感謝の気持ちを込めて訪れたことも、小さな喜びですが、患者全員の健康を支えます。



あんどうクリニック

住所 可児市下恵土3440-678
電話 0574-63-6611
HP <http://www.andoclinic.jp/>
診療科目 内科 小児科 循環器科
消化器科 リハビリテーション科
休日 水曜日午後・土曜日午後・日曜日・祝日

診療時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00		○	○	○	○	○	○	/
16:00~19:00		○	/	/	○	○	/	/

◎9:00~13:00

医療・介護の専門スタッフによる、丁寧な相談させていただきます。



安藤文夫院長

岐阜社会保険病院に通院されていない方も、かかりつけ医からの紹介があれば、当院でCT検査（コンピュータ断層撮影）・MRI検査（磁気共鳴コンピュータ断層撮影）を受けることができます。ご心配な症状がございましたら、ぜひ一度かかりつけ医にご相談ください。



かかりつけ医からのFAXと電話で予約できます

お知らせ
かかりつけ医の紹介でCT検査・MRI検査を利用できます!

医療連携室では、当院の機器が皆様の健康にお役に立てるよう、開業医の先生方とより一層の連携をはかってまいります。

地域に密着した医療を目指して、岐阜社会保険病院医療連携室は他の医療機関からの紹介受付や、かかりつけ医の紹介など、地域医療の輪を繋げる窓口の役割を果たしています。今号は、当院と連携する「あんどうクリニック」を紹介いたします。

■ 外来診療担当表 平成 25 年 11 月 1 日現在

診療科		月	火	水	木	金	
内科	初診	岩田 敬和	吉田 均	横内 一彦	浅野 靖之	伊藤 貴彦	
	2 診 (消化器)	渡邊 久倫	清水 達治	伊藤 敏彦	清水 達治	伊藤 敏彦	
					9時 渡邊 久倫		
	3 診	(循環器)	山田 清康	岩田 敬和	山田 清康	山田 清康	河村 吉宏
			横内 一彦	上木 裕介	林 尋之	松尾 一宏	横内 一彦
	4 診			林 尋之 13:00~			
	5 診 (呼吸器)		各務 智彦	島田 永子	伊藤 亮太		
	6 診 (神経内科)	土方 靖浩	橋本 里奈		小池 春樹	横井 彰	
	7 診	(血液)	吉田 均	伊藤 貴彦	吉田 均	西山 誉大	
(腎臓)						浅野 靖之	
8 診 (内分泌)	池庭 誠	石黒 俊明	石黒 俊明		高槻 健介		
専門外来 (予約制)				粕谷 志郎 13:00~			
外科	1 診	瀬古 浩	太田 俊介	瀬古 浩	太田 俊介	乳腺外来 10:00~12:00	
	2 診	池山 隆	大森 健治	大森 健治	池山 隆	児玉 肇朗 (泌尿外科)	
	3 診	西村 廣大	岸田 喜彦	西村 廣大	中村 彰太 (呼吸器外科)	岸田 喜彦	
	形成外科 (予約制)		高成 啓介 1-3-5 週 14:00~				
	小児外科 (予約制)		岸田 喜彦 14:00~				
整形外科	1 診	杉浦 洋	高松 晃	渡部 達生	松本 拓也	交替制	
	2 診	小早川 知範	若月 克之 (手外科)		小早川 知範		
	3 診	新城 龍一 (産科)		幸島 寛	吉岡 裕 (リウマチ)	幸島 寛	
	午後					川崎 雅史 4時 14:00~16:00 産科	
泌尿器科	1 診	青木 重之	山田 芳彰	青木 重之	原 浩司	山田 芳彰	
	2 診		原 浩司	七浦 広志		七浦 広志	
小児科	1 診	金山 恵子	月舘 幸一	月舘 幸一	月舘 幸一	金山 恵子	
	2 診	月舘 幸一				月舘 幸一	
	専門外来 (午後 予約制)	月舘 幸一 (慢性疾患)	小川 千香子 2-4 週 (神経)	長谷川 誠一 1 週 (小児循環器) 月舘 幸一 (予約接種)	月舘 幸一 (慢性疾患)		
耳鼻咽喉科	1 診	平野 光芳	平野 光芳	平野 光芳	平野 光芳	平野 光芳	
	2 診	櫻井 一生			田邊 陽介		
婦人科	1 診	片山 宣	津田 弘之	真鍋 てるみ	中原 辰夫	片山 宣	
皮膚科	1 診					稲葉 由季 9:00~11:30 予約制	
脳神経外科	1 診		百田 洋之				
眼科	1 診	清水 裕司			土井 浩史	蒲野 由衣	
内視鏡 (カメラ)	内視鏡室	清水 達治 伊藤 敏彦	伊藤 敏彦 渡邊 久倫	清水 達治 渡邊 久倫	伊藤 敏彦	渡邊 久倫	

□ 外来受付時間 ● 初診 8:30~11:30 ● 再診 8:30~12:00 ○ 休診日 土・日・祝日・年末年始

編集後記

おかげさまで、はとぶき創刊から1年が経ちました。記者として取材をしていくうちに、職員でも知らなかった病院の一面を知る機会になり、誌面を通じてお伝えできることを、毎回楽しみにしながら制作をしています。今後もより多くの方にお読みいただける誌面を目指してまいりますので、ぜひご愛読ください。